

情報科教員になるにあたり、なぜ「職業」の知識が必要なのであるのか。それには、まず高等学校において教科「情報」がどのような経緯から設置されたかを考えればよい。情報科教員は、いま教えていることが社会でどのように生かされるのか、見通しをもって教えなければならないのである。

0.1 「情報と職業」の意義

0.1.1 教科「情報」

パソコン、インターネットの普及によりビジネス場面のみならず、教育、家庭などさまざまな場面で情報社会を実感することになった。情報化はさまざまなメリットを我々にもたらす反面、少なからぬリスクをもたらすことになった。学校教育においても、「生きる力」の重要な要素として情報化社会に対応する能力を養う必要性が高まった。このような状況に対応するために、文部科学省は「情報」の取り扱いに関する能力を小学校から高等学校までに体系的に育成することとした。特に高等学校においては、「情報手段の活用を図りながら情報を適切に判断・分析するための知識・技能を習得させ、情報社会に主体的に対応する態度を育てることなどを内容とする教科「情報」を新設し必修とすることが適当」との1998年7月の教育課程審議会の答申を受け、2003年度より教科「情報」が開設されることとなった。

教科「情報」は普通教科と専門教科に分かれている。学習指導要領に掲げられている目標は、普通教科においては「情報及び情報技術を活用するための知識と技能の習得を通して、情報に関する科学的な見方や考え方を養うとともに、社会の中で情報及び情報技術が果たしている役割や影響を理解させ、情報化の進展に主体的に対応できる能力と態度を育てる」というもので、一般的な情報活用能力を主眼としている。専門教科においては「情報の各分野に関する基礎的・基本的な知識と技術を習得させ、現代社会における情報の意義や役割を理解させるとともに、高度情報通信社会の諸課題を主体的、合理的に解決し、社会の発展を図る創造的な能力と実践的な態度を育てる」となっており、当然のことながら職業訓練としての要素が含まれている。

0.1.2 情報科教員の資質としての「情報と職業」

教科「情報」の高等学校教諭普通免許状を取得するにあたり、教科に関する専門科目として以下の分野の履修が求められている。

- 1) 情報社会及び情報倫理
- 2) コンピュータ及び情報処理（実習を含む）
- 3) 情報システム（実習を含む）
- 4) 情報通信ネットワーク（実習を含む）
- 5) マルチメディア表現及び技術（実習を含む）
- 6) 情報と職業

このうち 6) の情報と職業では情報化社会の進展と職業、職業倫理を含む職業観などを学習し、情報と職業についての関わり、情報に関する職業人としての在り方を理解することを目的としている。

教職に関する科目のなかにも「進路指導の理論及び方法」に関するものがあることから、第 40 回教育職員養成審議会総会において「進路指導と職業指導はどう異なるのか。従来の職業指導のようなニュアンスは残さない方がいいのではないか」といった意見もあった。一方、教科「情報」では前述のように普通教科と専門教科に分かれるため、専門教科においては「専門職業人養成が念頭におかれており、職業についてある程度まとまった形で扱うべき」、また普通教科においても「職業指導は特段必要ないのではないかとの意見もあったが、情報は一般社会における組織体の運営、マネジメント等と密接に関係し、あらゆる場面において情報に関する職業領域が成立してくることを踏まえ、従来型の職業指導ではなく、「情報と職業」として多少幅広い内容を盛り込む形にした」という意見もあり、このように職業に対する理解を重視した科目構成となった。

0.1.3 本書で取り扱う内容

「情報と職業」という科目が設置された目的は前述のとおりであるが、本書では、職業未経験の学生がこの本を読む機会が多いと考え、次のような時系列を想定して、記述することにした。

- a) 働くとはどのようなことか考える（就職の意識づけ）
- b) 就職に備えるとはどういうことか知る（就職準備）
- c) 働くにあたって必要なルールを学ぶ（就職）

d) 働く満足感を得るためにどうしたらよいか（就職数年後）

まず、なぜ働くのかということをも自分なりに考えた上で、多くの人が勤めることになるであろう企業と企業社会についての知識を得る。すべての仕事は情報を扱うものであるが、その中で情報に関わる要素が多い、逆の視点から見れば情報以外の要素が少ない職種として事務職と情報関連の職種を取り上げ、その特性を理解する。さらに情報関連の職につくために必要な知識・技能にどのようなものがあるかを知り、自分がどのような特性をもっているのか、どのような仕事につけば満足するのか、企業側は、どのような能力を期待していて、それをどのようにして測ろうとするのかを概観する。

次に仕事をするにあたり、情報を扱う職業人としてわきまえていなければならない基本的なルールを理解する。特に高度情報社会では法律による規制だけでは問題を解決できない。そこには情報倫理を確立することが必要である。また近年、個人情報について非常に敏感な時代になった。プライバシーに関する根本的なルールを理解することが、さまざまな問題に直面した際に問題を解決する指針となる。

しばらく職業生活を続けてくると自らのキャリアについて考えるようになるだろう。その際、どのように行動すれば自分が満足するのか考える方策を知る必要がある。また情報化社会の進展とそれに伴うビジネス環境の変化が、今後の私たちの職業生活にどのような影響を及ぼすのか考える契機を提供したいと考えている。

情報と職業に関しての視野を広げるために、職業生活に必要なさまざまな視点からテーマを設定した。1つの科目としては幅広い領域であるが、よりよい職業生活を送るには必要な知識であると考えている。図 0-1 はそのイメージである。

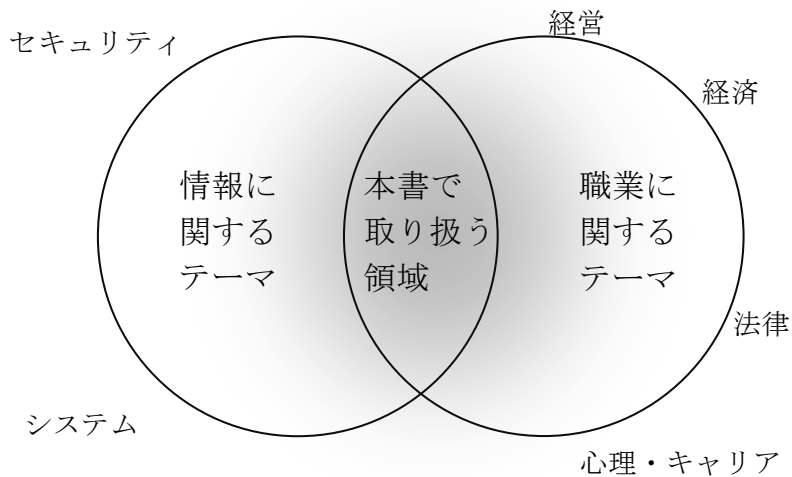


図 0-1 本書で取り扱うテーマ領域

参考文献

- [1] 文部科学省 “高等学校学習指導要領”
http://www.mext.go.jp/b_menu/shuppan/sonota/990301d.htm
 参照 2011-01-16
- [2] 文部科学省 “第 40 回教育職員養成審議会総会議事録”
http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/12/yousei/gijiroku/002/000601.htm
 参照 2011-01-16
- [3] 私立大学情報教育協会 “高等学校の教科「情報」担当教員の養成”
http://www.juce.jp/LINK/journal/0003/01_01.html
 参照 2011-01-16